

ロンドン滞在記（孫はロンドンナー）②

歴史に思いを馳せたロンドンへ塔

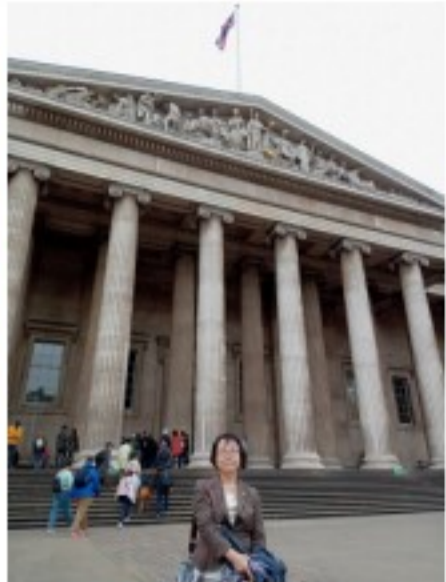
上村 文香

滞在初日は、娘がオースターカードと呼ばれるIC系カードを用意してくれていて地下鉄に乗って大英博物館に行った。一応マスクは持って行ったが、誰もしていないので郷に入れば郷に従えで、これ以降マスク無しで過ごした。イギリスは集団免疫が8割獲得されているそうなので、大丈夫だろうと考えた。大英博物館は、一週間かかっても見きれないほどのコレクションを収蔵している。そこで興味のある古代エジプト、古代ギリシャ、ローマ、アジア、アフリカの一部を駆け

その後、リパティへ行行った。生地だけ売っているのかと思いきや、クラシックで凄く素敵でなデパートであった。でも、何もかも高くて手が出ず、ハンカチを買う。ロンドンまで来て貧乏性な私。お昼にラーメンを食べたが、二人で5000円位かかり話には聞いていたがやはり高い。

20日は車で2時間位のコッツウォルズに連れて行ってくれた。世界でいちばん美しい村とウイリアム・モリスが讚えたパイプリーを訪れた。14世紀に建てられたライムストーンの家々が並んでいて、コルン川は水が澄んでいて養殖場から逃げてきたと思われ鯉がたくさん泳いでいた。夜は孫の2歳の誕生日で、家族でお祝いした。高知にいるときはまだ歩くことができなかったが、今では、ベビーカーに乗るより歩くことが好きで急ぐ時には困るが成長を感じた。前日、ママ友のお茶会でプレゼントをたくさんもらっていたように、ご馳走を食べながら楽しくお祝いをした。

何と入場無料の大英博物館



21日は、家族でバッキンガム宮殿に衛兵交代式を見に行く。地下鉄を乗り継ぎバッキンガム宮殿に着くと、もう既にたくさんの人々が交代式を待っていた。

私一人で人垣をかき分け宮殿の門まで行き写真撮ろうとしたのだが、背の高い人ばかりでなかなか撮れない。ふとバッグを見るとチャックが全開で、スリ？やられたと思ったが財布があり一安心。楽隊が演奏する中、オールドガードとニューガードが宮殿の前庭で交代する様子を、他の人が掲げたスマホの映像で見ると、長い黒帽子に赤い制服が人形のように素晴らしくかった。もっと早く場所取りをすればよかったと思った。

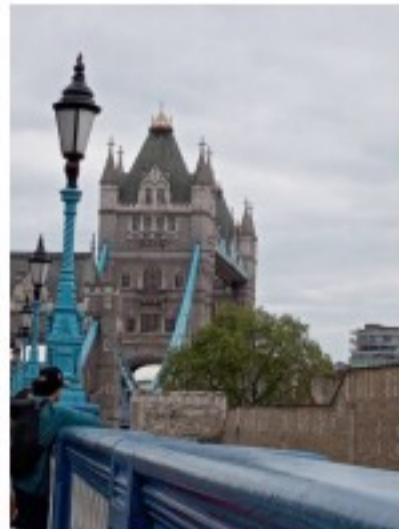


「羊の丘」コッツウォルズで孫と



バッキンガム宮殿の衛兵交代式

テムズ川にかかるロンドン橋。ンド連合王国」とい、イングランド、スコットランド、ウェールズ、北アイルランドの連合体だ。国旗であるユニオンジャックもそれぞれの十字が組み合わさったものである。階級社会であり君主制である。英王室は「英国の母」として愛されたエリザベス女王が死去したことで君主制廃止を訴える運動「Not My King」も拡大した。チャールズ国王の戴冠式でも記憶に新しい。このため、国王は国民との距離を縮めるのに熱心だそうである。



テムズ川にかかるロンドン橋

ボイスアクションにご協力を

「教え子を再び戦場に送るな！ 憲法を守り、戦争しない・させない 岸田大軍拡反対、改憲ストップ」岸田政権へあなたの怒りの声(ボイス)を上げて(アクション)ください。前号で同封したハガキに記入してお送り下さい。



5月1日のメーデーでデモ行進する高退協